第3回保護者交流会

<本日の構成>

- ① 話題提供 (NPO法人遊育理事長 津田誠一) 遊育が目指す「遊びと学びのコラボレーション」
- ② 意見交換 (アドバイザー:津田誠一) 我が子の遊びを見直してみよう!



③ 意見交換 (アドバイザー: 岡山D&L代表 田口貴春) 遊びを学びにどうつなげるか?

後援: 岡山市教育委員会、岡山市社会福祉協議会

①「遊びと学びのコラボレーション」

話題提供 (NPO法人遊育理事長 津田誠一)

- ★ 自己紹介(遊育の理念)
- ★ 遊びとは何か?
- ★ 幼児期における遊びに求められるもの
- ★ 遊べない子どもが増えている?
- ★「遊び」と「学び」のコラボレーション

「福祉の谷間」

- ⇒既存の福祉制度やサービスでは支援が届きにくい状況
- ・学齢期ごとに支援や指導が分断され一貫性ない
- ・対症療法的手法が多く、根本的な対策ではない
- ・保護者を巻き込んだ指導・支援体制が弱い
- ・バランス良く発達させるアプローチが少ない
- ・対人関係・言葉・社会性などの総合的育成の視 点が弱い

遊育は「福祉の谷間を埋める活動」に従事!

「鉛筆の持ち方がおかしい」「はさみがうまく使 えない」「消しゴムで上手く消せない」等々



鉛筆の持ち方が悪く、鉛筆が立ちすぎ/寝すぎ



筆圧が強すぎ/弱すぎて、字が濃すぎ/薄すぎ



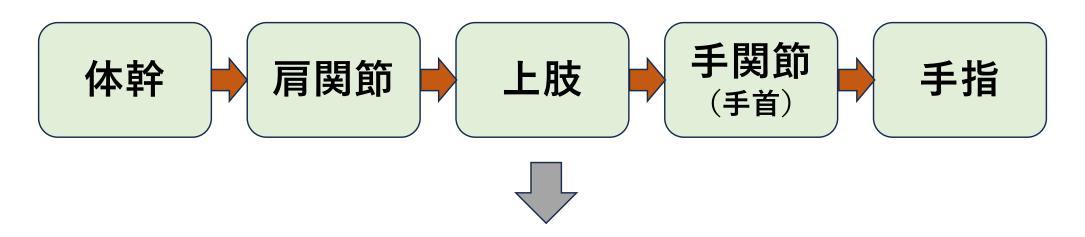
書く量や時間が増えると、書くことが苦痛に!



勉強そのものが億劫になり、成績不振に...

腕を上手に動かせない⇒鉛筆の持ち方に影響?⁴

身体の運動面の発達の道筋



体幹(中心部)から手指(末梢部)へと順に発達



体幹をうまくコントロールできないでいると、手指 をうまく使えない状態、すなわち「不器用」となる

遊育の基本理念

微細運動の発達が遅れている子どもに 対しては、対症療法的に微細運動の発 達の遅れを伸ばす練習をするだけでな く、土台の弱さとなっている粗大運動 の発達の遅れを伸ばす「土台作り」を 重視しながら、微細運動の発達促進を をはかろうとする。

対症療法ではなく、根本的な土台作りを重視。

遊育療法のねらい

- ①軽度の発達障がい児の特性の改善
- ②対人関係やコミュニケーション能力 の遅れの克服
- ③学習のつまずきを防ぐレディネスの 習得
- ④学びの基礎力の育成
- ⑤保護者に対する子育ての助言

「遊育」とは?

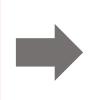
◎「遊びを育てる」

◎「遊びを通して育てる」

遊育が考える課題の背景と対策

原始反射 の残存

ダイナミック遊び



土台の弱さ

感覚統合遊び



各種発達 の遅れ

群れ遊び

教科学習の遅れ

楽しみながら学ぶ?

学びの基礎力欠如

遊びを通して学ぶ?

遊びを通して、いかに学びを高めていくか?。

◎遊びとは何か?

情意面

- ・楽しさ・安心感や満足感、充実感を伴う
- ・自己肯定感や自尊感情を高める
- ・ストレスの発散や気分転換に役立つ

効用面

- ・想像する力や創造性を養う
- ・語彙力を育てる
- 社会性やコミュニケーション力を養う

特性面

- ・始めるのも、止めるのも自由(≠強制)
- ・自分の意志で自分自身をコントロール
- ・無秩序からルールを伴うものまで存在

◎幼児期に求められる遊びとは?

幼児期の特性を見ると...

- ・身体能力が急速に発達する時期
- ・動作の獲得(多様な動きを経験)の時期



- ・筋力や運動技能、持続力、粘りを獲得す る時期ではない
- ・より早く、より強く、より正確さを求め る時期ではない
- ・多様な動きを組み合わせ身体を動かすこ とが望ましい

◎遊びの発達段階について

幼児期から学童期の遊びの発達の方向性

・単純な遊びから複雑な遊びへ

・ごっこ游びからルールある游びへ

・一人遊びから友達、小集団遊びへ

◎遊べない子が増えている

幼児期から学童期の遊びの発達の方向性

・遊びに誘う環境の悪化

・遊ばないことによって生じる課題

・遊びに向かわせる為にできること

◎遊びと学びのコラボレーション

遊びと学びは相反するものか?

- ・遊びは自発的な意思でなされる(≠強制)
- ・自発的な遊びを通して学びを積み重ねる
- ・集団遊びの中で興味・関心が広がり、多様 な経験が積める
- ・友達と遊ぶことでコミュニケーション力や 対人関係力が発達する
- ・生きる力の基礎となる心情・学習意欲・態 度を身に付ける(≒学びの基礎力)